

西播磨の甲虫相*

高橋 壽郎

はじめに

西播磨地域はいわゆる播磨平野とそれをとりまく中国山脈の東端にあたる山岳部分を含んでいる(三宝山1,358mを最高峰として、千町ヶ峰1,139m、日名倉山1,047m、笠形山939m、雪彦山915m、船越山727m、三濃山509m等々著名な山岳がある。)非常に自然に恵まれた地域であるのでそこに産する甲虫は大変種類数も豊富で、但馬地域とは違った変化のある甲虫相を呈している。ただこの地域の開発は徐々に進んで時々刻々と様相が変わりつつあることは大変残念である。このあたりでこの地域での甲虫相をまとめておくことも無意味ではないと考えられるので簡単に報告する。

本文をまとめるに当たっては多くの方々へ援助して頂き同定をお願いしたり教示を受けている。一々芳名は記さないが厚く御礼を述べさせて頂く。

調査地域

本文をまとめるに当たって調査した回数、年次は次のとおりである。

飾磨郡雪彦山(1957・1976・2回)、我孫子谷(1979・1980・2回)、家島(1978・1回)、姫路市の形~大塩(1979・1回)、白浜ノ宮(1979・1回)、揖保郡御津町新舞子(1979・1回)、新宮町福原(1992・8回)、龍野市神岡町(1988・7回)、鷄籠山(1970・1回)、相生市三濃山(1969~1974・8回)、赤穂市坂越(1979・1回)、天和(1974年・1回)、赤穂郡上郡町万勝院富満高原(1978・1回)、上郡天王山(高嶺神社)(1975・1回)、佐用郡上月町大撫山(1971~1978・8回)、南光町瑠璃寺(1971・1回)、宍粟郡一宮町福知溪谷(1972・1976・2回)、波賀町原(1979・1回)、音水溪谷(1958~1979・18回)、水谷(1981・1回)、戸倉~坂の谷(1973・1979・2回)、神崎郡笠形山(1966~1976・3回)、峰山高原(1982・1回)、長谷~川上~砥ノ峰(1979・11回)、川上~千町峠(1977・1回)、朝来郡生野~神崎郡大山村(1952・1955・2回)、生野~段ヶ峯(1956・1回)

1952~1992年の間28地点94回の調査を実施した。なお調査の結果採集した標本は原則として県立人と自然の博物館に保管されている。

* 兵庫県甲虫相資料・284

考察

① 西播磨地域に生息する甲虫の種類数

今回のまとめをした結果西播磨に生息していると考えられる甲虫類は85科、1,481種であった。これらの種目録(詳しいデータ付)は別途作成してあるがあまりにも長文になるので今回不本意ではあるが一切省略した。また少なくとも科名と種類数をとも考えたが単なる科名と種数の羅列になってもとこちらも総て省略した。ただ参考までに産出種の上位5科は次のようである。

カミキリムシ科291種、ハムシ科291種、ゾウムシ科132種、オサムシ科102種、コガネムシ科86種

1992年末における筆者のまとめた兵庫県産の甲虫類は112科3,141種である。したがって大ざっぱにみて兵庫県産甲虫類の1/2に近い種類が西播磨に生息していることになる。

② 西播磨地域に生息する注目すべき甲虫類

西播磨産甲虫類1,481種のうちこの西播磨からのみ記録されている種が40科132種ある。そこでこれらの種を中心にして注目すべき甲虫類のごくいくらかを説明してみたい。

Leptocarabus kyushuensis nakatomii (Ishikawa, 1866) チュウゴククロナガオサムシ(オサムシ科)

中国地方に分布しているオサムシで、この地域の大撫山に産するがこの地が分布の東限にあたる。大撫山では冬季オサ堀りでかなりの個体数を得たが、現在どのようになっているかわからない。

Trechiana crassilobatus S. Uéno, 1977

トノミネメクラチビゴミムシ(オサムシ科)

Trechiana fujitai S. Uéno, 1969

フジタメクラチビゴミムシ(オサムシ科)

両種とも上野俊一博士によって記載された種であり、前者は神崎郡大河内町川上産、後者は佐用郡船越山産であり、その後これ等の地以外の産地が知られていない。

Pheatodytes relictus S. Uéno, 1957

ムカシゲンゴロウ(ムカシゲンゴロウ科)

Morimotoa phreatica S. Uéno, 1957

メクラゲンゴロウ(ゲンゴロウ科)

ともに上野俊一博士より記載された。前者は相生市、姫路市、揖保郡太子町の地下水から。後者は姫路市、相

生市両水源地、揖保郡太子町の地下水の中から見出された。後者は京都市嵯峨の産が知られており、県下氷上郡柏原からは亜種ミウラメクラゲンゴロウ *ssp. miurai* S. Uéno, 1957が知られている。地下水の状況が悪くなっており採集法が難しいなどの点から現在の状況が良くわからない。最近姫路市飾西で得られている(森, 北山, 1993)。両種とも上記以外の産地が知られていない。

Eopachylopus ripae (Lewis, 1885)

ツヤハマベエンマムシ

Hypocaccus asticus (Lewis, 1911)

ヒメハマベエンマムシ (エンマムシ科)

和名のごとく海浜性のエンマムシである。最近のように砂地による海浜というものが県下の南部瀬戸内ぞいにほとんど見られなくなった状況下ではこのような種との遭遇が非常に稀となってきた。ともに姫路市の形海岸で記録があるのみである。

Agrilus daimio Obenberger, 1936

ダイミョウナガタムシ

Agrilus nakanei Y. Kurosawa, 1963

ナカネナガタムシ

Agrilus takashii Toyama, 1988

タカハシナガタムシ (タムシ科)

ナガタムシ属の各種は特に赤西、音水に豊富で、カミキリムシ類の珍品を産するのとあわせて、この地域の特徴の一つになっている。上記3種は県下で赤西の産が知られているだけである。

Lopheros septentrionalis (Kôno, 1932)

キタバニボタル (バニボタル科)

北方系の種である。飛翔中のものを音水で採集した。おそらく分布の西限に当たると考えている。

Pidonia approximata Kubokii, 1977

トサヒメハナカミキリ

Pidonia yamato Hayashi et Mizuno, 1953

ヤマトヒメハナカミキリ (カミキリムシ科)

Pidonia 属のハナカミキリはこの音水、赤西溪谷には数多く産する(16種)、上記2種は音水、赤西以外県下での記録がない。

Glaphyra gracilis Hayashi, 1949

オダヒゲナガコバナカミキリ

Glaphyra kobotokenis Ohbayashi, 1963

コボトケヒゲナガコバナカミキリ

Glaphyra takeuchii Ohbayashi, 1937

タケウチヒゲナガコバナカミキリ (カミキリムシ科)

ヒゲナガコバナカミキリ属に属する上記3種はいずれもカエデの花上にやってくるカミキリである。現時点では赤西、音水溪谷が県下で唯一の産地である。

Gallerucida flavipennis Solsky, 1872

ズグロアカハムシ (ハムシ科)

和名のごとく赤褐色で頭部が黒色をしている。ノブドウが食草である。音水溪谷で採集したもの以外県下での記録を知らない。

③ 西播磨地域産甲虫をタイプに記載された甲虫類

今回この報文で西播磨として取扱った地域内で得られた甲虫をタイプとして記載されている種がどのくらいあるか一応文献で調べてみた。筆者の貧弱な所有文献からの調べであるから見落としているものがかなりあるのではと心配している。これらの甲虫は前項“西播磨地域に生息する注目すべき甲虫類”の中で解説しているものもあればそうでないものもある(小型種で一般になじみの薄いものについては解説していない)。

全部で11科14種2亜種である。学名、和名、タイプ標本の産地名を示せばよいが長くなるので省略させて頂く。

おわりに

西播磨の甲虫相は現在兵庫県産として考えられる甲虫類3,141種に対して現時点ではほぼその1/2に近い種類1,481種の生息がわかっている。ただしこの数字は大変流動的で次々と調査が進むにつれて増減をくりかえしてゆくであろうと考えられる。しかし傾向としてはほぼ同じであろう。

この西播磨地域はいわゆる播磨平野の西方部分にあると同時に西端部は岡山県と境を接し、さらに北に鳥取県との境には東中国山脈が存在して山岳地に近いような状態で、まだ自然度抜群のすぐれた地域が存在している。

そのためこの地域が豊富な昆虫相、甲虫相を呈している。

戸倉から坂の谷、音水、赤西の原生林(しだいに開発が行われているが)、後山、日名倉山と優れた山地帯を有することで甲虫相においてもカミキリムシ、タムシ、ナガクチキムシ、アカハネムシ類のようなグループがそれぞれ豊富である。とくにカミキリムシの中のハナカミキリの仲間、タムシの中のナガタムシの仲間が豊富である。兵庫県下でこの地域からのみ見つかるものが現在132種あり、小形種はこれからの調査で追加種がいくらかでも見つかるであろう。

キンキコリクワガタとカルリクワガタを産したり、かつてはダイコクコガネを多産したり、トノミネメクラチビゴミムシとかフジタメクラチビゴミムシのようなある地点にのみしか知られないもの、平野部に及んではムカシゲンゴロウ、メクラゲンゴロウのような地下水生活者、大撫山が分布の東限にあたるチュウゴククロナガオサムシを産し僅かに残る海岸線にはツヤマルエンマムシとかヒメハマベエンマムシが見られる。

ハムシ類も面白いものが見られ県特産のキベリハムシも姫路の書写山とか赤西渓谷の記録もある。

甲虫類以外のものでは半翅目のベニツチカメムシ、ヨツモンカメムシ、タケウチトゲアワフキなどいずれも音水、赤西でみられる。蝶ではウスバシロチョウを多く産する。ウスイロヒョウモンモドキもこの地域が分布の東限と考えられていたが、現在絶滅に近い状態になっているのではないか、あるいは絶滅したのかもしれない。オオムラサキの方は数は多くないが広く分布しているようである。

全般的に眺めた場合西播磨地方は海岸から平野部、さらには北部の山岳地域と変化に富んでおり、同時に甲虫相も変化の多い豊かな産出状況を現在では呈していると思われる。

種々の制約があり十分な説明が出来ていない不本意な報文になっていることを重々おわびする。

参考文献も大変多い。頁数の関係もあり、筆者が別途発表している“東播磨の甲虫相”（きべりはむし Vol. 21, No.2, 1993. Vol. 22, No.1, 1994）を見ていただくとしてここでは省略させて頂く。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇
〈〈お知らせ〉〉

☆ 富士フィルム・グリーンファンドから研究助成について（環境保全のための活動を続けている方々の活動を助成。）

11年目を迎えるこの事業の現在までの助成数は45件。今年度の助成総額は800万円です。今年度の助成が予定されています。締め切りは1994年5月16日(月)。

詳しい資料はハガキにて下記までご請求下さい。

〒113 東京都文京区湯島2-29-3

(財)自然環境研究センター内

公益信託 富士フィルム・グリーンファンド事務局

電話 03-3813-8806(代)

☆ 人と自然の博物館

特別企画展 「植物画が語る兵庫」が開催されています。期間は1994年2月15日～4月10日まで。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇
☆ 公益信託 増進会自然環境保全研究活動助成基金の募集要項について

『日本の絶滅のおそれのある野生生物』（環境庁1991年）に掲載されている絶滅のおそれのある野生生物の種類のうち、小動物（大型の哺乳類、鳥類を除いたすべての動物のことで、爬虫類・両生類・淡水魚類・昆虫類・甲殻類などを含みます。）についての調査・研究が対象となります。

1件あたり60万円です。4件以内の助成の予定。応募の締め切りは1994年5月31日(火)。詳細は下記まで。

〒113 東京都文京区湯島2-29-3

(財)自然環境研究センター内

公益信託 増進会自然環境保全研究活動助成基金事務局

電話 03-3812-0811